

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【日進中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	ICTを活用した反復演習での基礎基本事項を生徒の主体的な取組で充実させることを、副教材の活用と併せて効果的に実践していく。
思考・判断・表現	生活習慣に関する調査33「話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていく」といった活動において、各授業での話し合い活動の中で教え合い、まとめたり、発表したり、言語活動を繋げて発展させることで「思考・判断・表現」の「表現」の領域まで横断的に取り組むことを通じて、「知識・技能」を関連させていくことを探求していく。
主体的に学習に取り組む態度	生活習慣に関する調査36「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」「37「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」「40「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか。」「において、肯定的な回答を80%以上とする横断的な主体性を育む展開を話し合い活動に力を入れることで導きたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語は「言葉の特徴や使い方に関する事項」、数学は「図形」の各領域、社会は「公民的分野」を3pt向上させる。R4年度全国学力・学習状況調査より、理科は「エネルギー」の領域をさいたま市学習状況調査の結果も併せて3pt向上させ、維持する。	⇒ 国語は文法のテスト範囲を適切に設定し習熟度を捉え、数学・社会・理科はスタディサプリやドリルパークを活用して主体的な反復練習を指導する。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査より、国語は「書くこと」、数学は「観点②・記述式」の領域において、45点以上を維持する。R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、理科は領域ごとの平均正答率の格差を正すを目指す。	⇒ ICTの活用や話し合い・教え合いの活動を通して、「聞く・話す・考える」活動から思考の共有化を図る。教師側の評価の観点を示し、評価をもとに取組を向上させる実践力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問事項において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。また、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の質問事項において、肯定的な回答の割合を60パーセント以上にする。	⇒ 各授業において、自己決定、自力解決、自己の振り返りの場を設定する。また、主体的な取組として、家庭学習について、内容や手段を示し、自ら考え取り組むことを指導し、小テスト等を評価する。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	中1において、数学の「数と式」「図形」、社会の全領域、理科の「エネルギー」「粒子」を柱とする領域について、前年度比+3pt以上を達成した。	B
思考・判断・表現	国語の「書くこと」、数学の「記述式」において45点以上を維持した。理科の領域ごとの正答率は中1では70%前後で大きな差はなかった。	B
主体的に学習に取り組む態度	生活習慣に関する調査37「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」において、中1が88.0%、中2が81.9%、中3が86.4%、肯定的な回答90%以上には至らなかった。また、12「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の質問事項において、肯定的な回答の割合は中3が66.4%で目標は中3で達成した。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	R4年度さいたま市学習状況調査より、数学・社会・理科では全領域で上回っており、国語はほぼ前年度並みであった。特に、社会の歴史的分野では正答率+10pt向上している。また、数学の「データの活用」において、前年度対比の対象には該当しないが、正答率が高く、小学校からの継続的積み上げによるものと考えられる。国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」は他教科の各領域と比較して正答率が落ちるので、「知識」「思考・判断・表現」の観点から「書くこと」「話すこと・聞くこと」の充実を図りたい。
中2	R4年度さいたま市学習状況調査より、理科の「生命」「地球」を柱とする領域は上回ったが、理科の他の2領域と他教科は下回った。生活習慣に関する調査13「学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾・家庭教師による時間も含む)」における肯定的な回答が34.5%であり、勉強への意識を高め、家庭学習の充実、自立した学習の取組を探索させたい。学習習慣の定着による、課題提出の状況や課題への取組の向上を求めていく。
中3	生活習慣に関する調査の「主体的対話的で深い学び」に分類される5項目で80%以上の肯定的回答があり、また、13「学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾・家庭教師による時間も含む)」における肯定的な回答が77.4%、12「家で自分で計画を立てて勉強をしている」における肯定的な回答が66.4%であった。家庭学習による主体的な学びが得点上昇の根拠となっている。

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語は「言葉の特徴や使い方に関する事項」において全国正答率相当であった。数学は「図形」において全国正答率+4ptであったが、全国的に低い領域であるため、基礎力の定着を継続していく。英語は評価の観点「知識・技能」が全国正答率+10ptであり、「読むこと」「書くこと」における知識・技能をICTを活用し、より一層の向上を図る。
思考・判断・表現	国語は「書くこと」が全国正答率+7pt、「話すこと・聞くこと」+3ptで共に思考・判断・表現力の向上がみられた。数学は「データの活用」+10ptでICTの活用の基盤となる領域であるため、より一層の向上に努める。英語でも「書くこと」が全国正答率+11ptではあるが、記述式の問題形式と共に全国的に課題である領域のため、記述力を重視し思考・判断・表現力の一層の向上に努める。
主体的に学習に取り組む態度	質問番号12「学校に行くのは楽しい」において肯定的な回答が90%以上であることを大切にしつつ、質問番号17・18の「学校の授業以外の勉強時間」が平日・土休日共に50%以上が「2時間より少ない」状況であることを改善したい。質問番号24「読書は好きですか」において肯定的な回答が約8割である一方で「読書時間」は約7割が平日1日あたり30分以下、約7割が「図書館や学校図書室に行く」のは年に数回程度以下であった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし